

令和元年度 第2回 総合教育会議 会議録（要約）

期 日	令和2年1月27日（月）10時00分から11時10分
場 所	雲仙市役所別館 3F 会議室1
出 席 者	市長 金澤秀三郎市長 教育委員会 山野義一教育長、前田眞一教育長職務代理者 中村妙子委員、森下祐樹委員、仁禮智加子委員
事 務 局	市長部局 松橋総務部長、松浦政策企画課長、 鳥辺政策企画課課長補佐 教育委員会事務局 下田教育次長、小松総務課長、草野学校教育課長、 柴崎生涯学習課長、本田スポーツ振興課長、 森田総務課参事補（記録）

会議日程

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 議事
(1) 雲仙市教育大綱の策定について
- 4 その他
- 5 閉会

【10:00 開会】

1 開会

2 市長あいさつ

金澤市長 平成 26 年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により設置された総合教育会議も今回で通算 10 回目となり、これまで教育行政に関する多くの課題について意見交換を行った。今回からは、協議がより一層深まるよう、総合計画を担当する職員を出席させているので「雲仙市教育大綱の策定」をテーマに、忌憚のない意見を賜りたい。

3 議事事項

議事 (1) 雲仙市教育大綱の策定について

※事務局から、(1) 雲仙市教育大綱の策定について説明する。

金澤市長 今の説明について意見はないか。

前田委員 前回定例会で資料をいただいて、良いものが出来たと思ったが、教育というものをもう一度振り返り教育基本法を読んだりした。私たちが若いころには生涯学習というのが無かったけれど、最近、生涯学習が出て来て、人間が活着ている間に学習するのが全て生涯学習と言えるのではないだろうか。それでは、学校教育もその一環ではないだろうかと思った。教育大綱に掲げてある 4 項目は全て生涯学習であって、その中に学校教育や社会教育がある。生涯学習の部分が項目として別に挙げてあることがどうなのかなと思った。生涯学習を考えた時にこの括りが相応しいものだろうか。例えばスポーツの部分も生涯学習の一つではないだろうか。私たちは雲仙市民として市民の幸福のために教育に取り組み、そして、教育できる環境を整えることが市の役目だと考える。環境は「人とモノ」であり、それを考えると学校教育の中で人的環境、社会的環境、物的環境が挙げてあり、生涯学習の中でも社会的環境と物的環境があるが文化的活動には記載がないので、人的環境の記載が欲しいと思った。例えば、スポーツで言えば指導者の指導に努めますとか。指導者の養成があるが、文化的活動の方には無い。そこで、文化的指導者のバンクなどを作るような事ができないだろうかと思った。もう一つ、この中にボランティアという文言が一切なかったのでボランティアも入れてもらえたら良い気がした。

金澤市長 教育基本法上、学校教育、生涯教育、社会教育などたて付けがあるが、現状、どういうスキームになっているか。

柴崎生涯学習課長 一つの考え方として、先ほど前田委員が言われたように、人が生まれてから歳を重ねる中で色々な学校教育以外の生活や仕事での課題があるが、それぞれのライフステージなどにおいて行う、全ての学習活動が生涯学習であるという広い定義の考え方と、教育委員会が主体とするような限定された生涯学習に分かれる。広い範囲での生涯学習は、教育委員会の範疇を超える福祉や環境などの分野も含まれる。そのような場合は、教育委員会だけでは対応できないので市長部局で生涯学習に取り組むべきではないかという運動があった時期もあった。そういった中で、現在は教育委員会の範疇での生涯学習として取り組んでいる。

金澤市長 教育大綱上の整理は、課長の説明で言うと教育委員会の中での生涯学習という捉えの方が適正との考えか。

草野学校教育課長 教育基本法の構成について、教育の理念として生涯学習の理念が教育基本法の第3条に規定があるが、それを受けて第5条に義務教育、第6条に学校教育という形で整理してある。そのような形であって教育委員会の組織上のものとは異なる。これが平成18年に改正されているが、20年程前の改正の折に、旧文部省の組織改革がなされた。その時、生涯学習政策局が文部省の筆頭局となった。しかし、そこからは国の動きは変わっていないと思う。生涯学習が全ての教育の流れをまとめるという理念はあるが、実際にはまだまだ時間がかかると感じる。

金澤市長 前田委員の意見でスポーツ振興の人的な考え方があったが、文化的な人材の育成や人的な支援が無かったような意見だったが、それについては、事務局は議論した経過があるか。

柴崎生涯学習課長 合併前の旧町の時に、人材バンクを作ろうと長崎県が中心となって各種分野で活動されている方や、生涯学習の中で公民館講座を受講したことで受講者の中に指導が出来るようになった方もいることから、次の学習の場での指導者として活用しようということで人材バンクでリストを作り、色々な場で活用する取り組みをしてきた経過がある。合併後、個人情報の取り扱いもあり、そういうリストを公開することがしづらくなっていることもあり、市での取り組みは行っていない。逆に、雲仙市での人材プロジェクトという取り組みの中で、再度雲仙市の教育委員会に限らず雲仙市全体で色々な能力を持たれた方を、地域づくり等含めて活用できないか研究している。

金澤市長 人的な育成、支援、ボランティアの文言が無いという意見で、教育大綱の素案を作る上で意見は出なかったか。

小松総務課長 あっていない。

金澤市長 前田委員の意見で他に確認したいことがないか。

全委員 ない。

金澤市長 次に中村委員。意見はないか。

中村委員 各項目が幅広く大きく捉えられて、指針として相応しくなっているように感じる。ただ、総合計画や教育振興計画との整合性を意識されているがために、項目的で具体的で分かりやすいが、形式的な印象を受ける部分もあった。その中で、もう少し、雲仙市らしさが入れられないかと思った。雲仙市が子育て、幼児教育や人口減少対策など「優しさに満ちた教育」に力を入れているので、そういう部分を感じ取れるような表現が入れられないかと色々な資料を読んで感じた。雲仙市らしさを表現するためにも（２）「生涯学習」の項目が先ほど前田委員が言われたように「一番生涯に渡って大きな基になるのではないか」との意見は同じように感じた。ただ、柴崎課長が言われたように「教育委員会の組織としての生涯学習なんだ」との意見もあったが、「生涯学習環境の整備に向けて」とか、「青少年の健全育成に向けて」など限られた人を特定しているような感じを受ける。この辺りをもう少し大きなものに、例えば、雲仙市が計画の中に挙げている「地域を支える人づくりに向けて」とか幅広い言葉を入れるのが良いのではと感じた。そして項目として生涯学習が一番最初に来るような並びにした方が良いように感じた。

金澤市長 委員の意見について、ほかの委員の意見はないか。

前田委員 中村委員と同意で「生涯渡って学べる環境づくり」が項目として順序が先の方が相応しいと思ったりしたが、雲仙市が人財づくりを掲げているので、そのためにはまず子どもたちを育てようという事がまず先にメインとして挙げられたいのかなと思いは感じた。ただ、中村委員が言われるように「生涯にわたって学べる環境づくり」が先の方が良いのではと感じた。

金澤市長 ほかに委員から意見はないか。

全委員 ない。

金澤市長 森下委員意見はないか。

森下委員 教育大綱は、市民が見て分かりやすい、大まかに捉えられている内容が良いように思う。各項目に記載してある内容が、全体に繋がりを持たせるようなキーワードがないか考えたが思い浮かばず、スポーツの分野に関しても特に意見は無いが、実際どの課もそうだが、課題はかなり山積しており、かつ、そこには予算も大変かかる。この課題にどう取り組むべきか、達成できる内容が少なくなっているように感じる。文化・スポーツ施設が、だいぶ使いづらい状態になっているのかなと感じる。旧町で建設したものが古くなり、市の公共施設等総合管理計画の中で公共施設の面積25%削減の目標を達成するために統廃合を進めていかなければいけない。今回、愛の夢未来センターが出来て、比較的行かれる人は良いかなと思うが、南串山地区の方が言われるのは端々の住民は使いづらいと。教育大綱（案）に対して、特に意見はないが、実際やらなくてはいけない細かい内容については思うことはある。

金澤市長 委員の意見について、ほかの委員の意見はないか。

全委員 ない。

金澤市長 仁禮委員意見はないか。

仁禮委員 昨年11月まで社会教育委員を務めていて、コミュニティスクールの研修に佐々町に行った時に、雲仙市にも波及して欲しいなと感じた。学校教育の新学習指導要領が小学校で来年度、中学校で再来年度から実施されるようになるが、「社会に開かれた教育課程の実現」をうたっているので、この教育大綱でも触れる必要があるのではないだろうかと感じた。学校だけが子どもの教育を行う時代はもう終わっていると思うので、地域とともにつくる学校づくり、いわゆるコミュニティスクールの導入が今後の鍵になる。子どもが中学校2年で小学校の育友会を離れて思うのは、小学校では親や地域が関わる行事があり、地域ぐるみで教育がなされているが、中学校になるとほとんどなくて、地域や親同士の関わりさえ希薄化している。学校支援会議が設置されているが、その構成は一部の保護者の方々に形成され、それでは社会に開かれているとは言えないように思う。ほとんどの方は子どもが卒業すれば、地域と触れ合う機会が減り、学校で何が起きているのか分からない。学校の教職員も異動があるので、地域にどんな方がいるのか分からない状態ではないだろうか。育友会活動を通じて折角、熱心に力を貸してくださる方も子供の卒業と共にそれっきりになるのはもったいないと思う。育友会を出ても関わっていけるような体制づくりとしても、コミュニティスクールが重要だと思う。2022年度までに全公立学校にコミュニティスクール制度の導

入を目指す」と閣議決定されて、来年までに運営支援を1校導入するという事で南串第一小を指定しているので大変期待している。このコミュニティスクールは統計で昨年全公立学校の21%導入されている。雲仙市も学校を地域の核とする地域づくりに取り組みコミュニティスクールを全公立学校に導入されるべきだと思う。地域の教育力が向上し、地方創生にも繋がるのではないか。学校教育の(1)「確かな学力、確かな心、健やかな体を育む教育の実現」の次に「と学校・家庭・地域が共につくる学校を目指し」というフレーズを入れられないだろうか。

金澤市長 小学校の時は地域の繋がりが比較的あるが、中学校に行くと繋がりは薄れるというのは具体的にはどういう事か。

仁禮委員 小学校では、収穫祭をして老人会の方が来られたり、卒業生による蕎麦作りなど色々な地域の方が学校に入って来られることが多いが、中学校では親も関わる機会が少なく、小学校と比べると保護者間の交流も希薄化しているように感じる。

金澤市長 コミュニティスクールについて、現状どのように取り組んでいるのか。

草野学校教育課長 コミュニティスクールについては、長崎県の方針で令和2年度までに各市町に1校のコミュニティスクールを立ち上げることになっており、雲仙市においても令和2年4月1日から南串第一小学校で立ち上げる準備をしている。コミュニティスクールについては、法的に示されている学校運営協議会を設置して、校長の学校経営方針等について、地域住民の承認を得ることになっている。「承認」をどのように捉えるか判断が難しい所ではあるが、地域住民の理解を得て学校の活動が進んでいくという形を組むことがスタートになる。先ほど仁禮委員が言われた、地域と家庭と学校が連携した取り組みについては、学校でこれまでも取り組みを行ってきた部分でもある。コミュニティスクールとして立ち上げるのは、令和2年以降になるが同じような活動はこれまでも取り組んできている状況だ。

金澤市長 ほかに委員から意見はないか。

全委員 ない。

金澤市長 山野教育長意見はないか。

山野教育長 雲仙市の教育大綱が策定されようとしている。雲仙市には教育方針、教育努力目標もある。教育方針というのは不易なものだと思う。今回は教育大綱の案が示されている

が、教育方針や努力目標に沿ったものが提示されていると思う。今回良いと感じたところは、雲仙市の現状や課題を把握した上で、将来を見据えたものが全体的に網羅されている。例えば、総合計画の中にも当然、教育委員会以外の各部局が教育に関して取り組むことがあるが、今回、これを教育大綱の中で示されることによって、教育委員会以外の部局の取り組みが積極的に行われ、教育委員会等との連携が益々充実していくように思う。先ほど生涯学習の事が出たが、雲仙市教育委員会の生涯学習課が取り組むのは、学校教育以外に係る教育の分野。特に家庭教育や社会教育、地域教育について行っているのが現状である。それが生涯学習で生まれてから生涯に渡って学んでいくことで、例を挙げると公民館活動の充実によって地域の方も学校に行かなくても学ぶ事が出来る。生涯学習課で取り組む生涯学習の推進は、学校教育以外での教育分野の充実を図るために行っている。

金澤市長 教育長の意見について、ほかの委員の意見はないか。

全委員 異議なし。

金澤市長 今までの意見や具体的な提案も踏まえて事務局から意見はないか。

小松総務課長 第1回総合教育会議で、分かりやすくシンプルなものが良いとの意見があったので、そういった内容で案をまとめた。もう少し温かみのある内容となるよう文言を付け加えたい。

金澤市長 他に事務局からないか。例えば、先ほど中村委員や前田委員が言われた「生涯にわたって学べる環境づくり」のようなアイデアについて、先頭にあるべきではないか。という意見や、仁禮委員から出た「学校、地域、家庭」の整理だとか意見があればお願いしたい。

下田教育次長 まず、大きく全体に関わる事項として、生涯学習の範囲が全てを網羅して1番上(4つの項目の最初)にあるという考え方で行くのかどうか。それから行くと、生涯学習の分野が先ずあって、その他の教育の分野になっていくのかという点について協議をしてもらいたい。それから、仁禮委員が言われた「地域との連携に基づく」という言葉は、(1)の3つ目に「不登校やいじめの問題等」としているが、コミュニティスクールも含めた色々な支援について「学校、家庭、地域及び行政が連携」の言葉に想いを込めた。その辺りも果たしてこの文言とは別に設けた方が良いのか意見を頂ければと思う。

金澤市長 生涯にわたって学べる環境づくりについて、優先順位を委員はどのように考えるか。

前田委員 生涯にわたって学べる環境づくりを、先ず初めに出してもらいたい。

中村委員 雲仙市が、大きく何をを目指すのか。前提にあるとした場合にこの順位も決まってくると思う。他自治体の教育大綱を読んだが、例えば、長崎市は人材育成が目標でそのための項目を作っていくような構成だった。雲仙市も、人づくり、人材育成、地域づくりだったので、生涯学習をまず持ってくるのが良いように感じた。

森下委員 どの項目も地域との繋がりは大切になると感じる。生涯にわたって全てが関わっていくことを考えると、前田委員が言われたように生涯学習をまず持ってくるのが良いように思う。

仁禮委員 先ず読んだ時に課ごとの目標、目指すことが課ごとに記載してある。他の委員の意見も聞くと生涯学習がまず頭にあって他の項目に続いていく方が良いように感じる。

山野教育長 教育と言うとまず思い浮かぶのが、学校教育である。教育の中核は学校教育であり、そして家庭でも教育を行うという流れがある。教育委員会では今までは子どもを中心とした教育があり、生涯にわたって学ぶ事をやっという流れで来ている。総合計画でも順番的には学校教育があって生涯学習になっているのでこれに沿っている。

金澤市長 仁禮委員から提言があった（１）の学校、家庭、地域の連携の話があったが意見はないか。

前田委員 コミュニティスクールも含めた支援については、教育次長が言われた、いじめ問題等の「等」に含んでいるという話だったが、不登校やいじめ問題が頭にあるのでそちらに限定されるような印象を受ける。だから、他に案があればと思う。

中村委員 （１）の文言は「学校、家庭、地域の連携」と文言になっているが、学校、家庭、地域が大きく連携をして、それを行政がサポートをするような形にして、行政のサポートの中にコミュニティスクールが大きく含まれると判断できるのではないだろうかと思った。

森下委員 下田教育次長が言われる「等」に色々なものが含まれるという事は判断に難しい面があるように感じる。他の項目にも「地域」という文言はあるのでそのままでも良いのかなと思う。項目を多く挙げるのはどうかと思う。

山野教育長 当然、色々な教育について学校だけでは無理であり、保護者・地域の理解や協力がないと達成できない。どこの学校も頭にあって取り組んでいると思う。そうでないと目標は達成できない。だから、あえて書いていないと思う。しかしながら、不登校やいじめ問

題等については市長や教育委員会等との意見交換の場でも、不登校やいじめ問題については学校教育だけでは限界があるだろうと。民間や各種団体の協力をもらわないと対応できないだろうという事があり出てきていると思う。しかしながら、仁禮委員から要望や意見があったので色々な面からも市長とも意見交換をしたいと思っている。

仁禮委員 事務局からの説明の中でも、1つ目は学校教育の事、2つ目は学校環境の事、3つ目は不登校やいじめ問題等の事と説明があり、私も最初は3つ目の不登校やいじめ問題等の「等」にコミュニティスクールの事も含まれると悩んだが、学校教育の話だからあえてここに追加して書かせてもらえればと思い発言した。学校教育の中であえてコミュニティスクールと言わなくても学校は取り組んでいると思うと言われたが、私の考えとしては、今地域との交流をしている事を名前を替えてコミュニティスクールとは、してほしくない。今までの伝統にプラスして新しいことを始めて欲しい。例を挙げれば、家庭科の授業で包丁のさばき方を子どもたちに指導をしたいと考えているが、危ないから地域の方に中に入ってもらえないかと依頼があるとコーディネーターを通じて地域の方に聞いて、食生活改善推進員や地域の方が学校に入って社会に開かれた教育をされていた。このような活動が雲仙市全体に広がれば良いなと思い提案させてもらった。

金澤市長 他に教育大綱の全体を通して何か意見はないか。

中村委員 今日には色々な意見が出たが、雲仙市の教育大綱は良く吟味をされて、他の計画等とも整合性が取れたものが出来ているように感じた。生涯学習の部分も捉え方だと思うので検討して欲しい。他市町の教育大綱も表現の仕方は様々だと思うので、一意見として考えてもらって更に吟味して欲しい。

金澤市長 他に意見はないか。

全委員 意見なし。

金澤市長 今後の進め方について事務局から説明をお願いします。

小松総務課長 本日の意見を踏まえ、事務局で案の修正・見直しを行い、もう一度委員の皆さんにご確認いただき、ご了解いただけたら市のHP等を利用してパブリックコメントを実施する。パブリックコメントで寄せられた市民の意見を受けて、どういう見直しをするか、委員の意向を確認したいと思う。場合によっては再度この会議を招集する必要もあるが、どの程度の意見が集まるかという事も考えられるので判断させてもらいたい。最終的には市長の決裁を受けて雲仙市教育大綱を決定したいと思う。その後、議会への説明も必要にな

と思う。

金澤市長 今後の進め方は今の説明があった内容で良いか。

全委員 良い。

金澤市長 その他について意見はないか。

全委員 ない。

金澤市長 以上をもって、令和元年度第2回雲仙市教育総合会議を閉会する。

【11：10閉会】